

# 探査ミッション立案スクール (第2回) 最終評価会

# 目的と概要

目的：太陽系探査ミッションを牽引できる人材の育成  
受講生に対しても、本スクールのチューターとなる研究者に対しても、厳しい鍛練の場となることを期待する。  
萌芽的太陽系探査ミッションのインキュベーター機能

今回のテーマ： 火星探査

実施時期： 2016年8月22日(月)～8月26日(金) (5泊5日)

実施場所： 神戸大学統合研究拠点3F：惑星科学研究センター

スクールの対象：宇宙科学分野の大学院生  
宇宙開発にかかわる企業の若手技術者・研究者

主催： 神戸大学 大学院理学研究科・惑星科学研究センター  
神戸大学

共催： 宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究所

# スクールスタッフ

【講師(登壇順)】 倉本 圭 (北海道大学大学院・理学院・宇宙理学専攻)  
 宮本英昭 (東京大学総合研究博物館・太陽系博物学寄付研究部門)  
 寺田直樹 (東北大学大学院理学研究科・地球物理学専攻)  
 小林 浩 (名古屋大学大学院理学研究科・素粒子宇宙物理学専攻)  
 前島弘則 (JAXA・宇宙科学研究所・宇宙科学プログラム室)  
 中村信一 (JAXA・統合追跡技術ネットワークセンター)  
 はしもとじょーじ (岡山大学大学院自然科学研究科・地球科学専攻)  
 上野宗孝 (神戸大学大学院理学研究科・惑星科学研究センター)  
 兒子健一郎 (JAXA・研究開発部門・第1研究ユニット)

【Tutor】 尾崎正伸 (JAXA・宇宙科学研究所・太陽系科学研究系)  
 冨田 洋 (JAXA・宇宙科学研究所・宇宙科学プログラム室)  
 兒子健一郎 (JAXA・研究開発部門・第1研究ユニット)  
 小川和律 (神戸大学大学院理学研究科・惑星学専攻)  
 臼井文彦 (神戸大学大学院理学研究科・惑星科学研究センター)

【Observer】 観山正見 (神戸大学大学院理学研究科・惑星科学研究センター)  
 渡邊誠一郎 (名古屋大学大学院・環境学研究科)  
 林 祥介 (神戸大学大学院理学研究科・惑星学専攻)  
 大槻圭史 (神戸大学大学院理学研究科・惑星学専攻)  
 荒川政彦 (神戸大学大学院理学研究科・惑星学専攻)  
 牧野淳一郎 (神戸大学大学院理学研究科・惑星学専攻)  
 中村昭子 (神戸大学大学院理学研究科・惑星学専攻)  
 高橋芳幸 (神戸大学大学院理学研究科・惑星学専攻)

# スクールスタッフ



【スクール実施】 開催責任者：観山正見 (神戸大学大学院理学研究科・惑星科学研究センター)

開催幹事：荒川政彦, 上野宗孝 (神戸大学大学院理学研究科)

【運営事務局】 臼井文彦 (神戸大学大学院理学研究科・惑星科学研究センター)

橋本正子 (神戸大学大学院理学研究科・惑星科学研究センター)

中西順子 (神戸大学大学院理学研究科・惑星科学研究センター)



# 最終報告評価会(26日)・アジェンダ



13時30分～15時30分：最終報告評価会

13時30分～13時35分：挨拶(センター長)

13時35分～13時40分：開催状況報告・評価者への説明

13時40分～14時30分：グループ報告(質疑応答)

14時30分～14時40分：休憩

14時40分～15時30分：グループ報告(質疑応答)

15時30分～16時00分：評価取りまとめ・受講生はアンケート記入

16時00分～16時20分：評価結果発表

16時20分～16時30分：集合写真

16時30分～16時50分：受講証授与・閉会宣言

17時00分：解散



# 最終評価者 (Jury member)

- 小川真人 (神戸大学・理事・副学長(研究・産学連携担当))
- 満田和久 (JAXA・宇宙科学研究所・研究総主幹)
- 荒川政彦 (神戸大学大学院理学研究科・副研究課長)
- 山川 宏 (京都大学・生存圏研究所・教授)：ご欠席
- 木村真一 (東京理科大学理工学部・電気電子情報工学科・教授)
- 倉本 圭 (北海道大学大学院・理学院・宇宙理学専攻・教授)
- 渡邊誠一郎 (名古屋大学大学院・環境学研究科・教授)
- 上野宗孝 (神戸大学大学院理学研究科・惑星科学研究センター・特命教授)
- 観山正見 (神戸大学大学院理学研究科・惑星科学研究センター長)

# 本スクール行った、ミッション立案検討について



本スクールで行う検討は、通常の宇宙科学ミッションの検討に向けた準備と、基本的に同じ範囲とし、具体的には以下の内容とした。

ミッション目的を確定した上で、

## 1. ミッション要求を明確にする

- ・その要求の背景の明確にする
- ・過去のミッションとの相違を明確にする。

## 2. システム要求を明確にする

- ・機能要求を中心としてまとめる

## 3. システム設計

- ・少なくとも実現性を示せる設計例を一つ出すことができれば十分である
- ・システム検討においては、最適化する事は要求しない
- ・ミッションの実現にむけての課題を抽出する

これらは、通常の科学・探査ミッションに対する準備過程における要求と同じ内容である。ただし、通常は数年かけて行う内容を、本スクールでは、3日強の時間でまとめてもらった。



# 受講者



## Team TOMATO

『火星大気循環の解明 ～ダストデビルの内部調査～』

大村知美 (神戸大学大学院理学研究科)

佐々木洸 (三菱電機株式会社)

香山裕樹 (東京大学大学院新領域創成科学研究科)

井出舜一郎 (東京大学大学院工学系研究科)

## 火星ポテトチーム

『ポテトチーム ～火星deかき氷～』

芝池諭人 (東京工業大学理学院)

宮田洋佑 (三菱重工業株式会社)

小澤祐亮 (東京大学大学院新領域創成科学研究科)

大熊成裕 (宇宙システム開発株式会社)

